

LEE RITENOUR MODEL LR10, MODEL

風のようなインテリジェンス、彼のスパイスによって味を高めた音楽は数多い。

キャプテン・フィンガーズ、ミュージシャン仲間での彼の評判はすこぶるつきのナイスガイ。ビューテフルバーソンである。飾りのない人柄、カリフォルニアの空のようにストレートでナイーブ。しかし、執拗は凄しい。たぐい一言凝る。猛烈に創ろうとする。クリエイターである。いつも穏やかな微笑をたたえ、少年のような彼に無防備で近よることはおすすり出来ない。他人の失礼を見るのがしはしない。手痛いしっぺ返しをいただくことになる。自分に厳しいのである。仕事の道具に対してもそのことは徹底する。LR10はそんな環境が育んだ。ソリッドでタイト、飾りはない。

彼はそれを手に“RIT”の制作に入った。まぎれないIBANEZのサウンドをお聴かせ出来る。ほくたちのグッドフェロー、リー・リトナー氏を紹介して

キャプテン・フィンガーズモデルを購入するには、まず非対称ネックをはぶけない。ロングタイムプレイにも耐えうる細くなく、太くない強靱なネック。ハウリング防止と音をタイトにしめる。F-Holeのカヴァー。チューニングが確実な決まるスペシャルフレットの採用。センターブロックにマホガニーをプラスした凡みのあるサウンドと飛躍的にアップしたサスティン。もう、サスティナーはいらなくなった。オリジナルピックアップアンプをクリエイト。指板にブライトアンローズウッドを採用。で、それらについて具体的にはRIT(IP-973E)をお聴きいただきたい。



LEE

RITENOUR

From Craftman

従来セミアコタイプのギターでは、ネックにはマホガニー又はメイプルが使用されてきました。どちらの材料も重量がありリトナーを満足させることはできませんでした。この長短をミックスアップして出来上がったのがマホガニー・メイプル・マホガニーの3ply構成のネックです。中低音として高音を弾き出させるにはこのネックが大きなポイントになっており、リトナー理想のネックといえるでしょう。

ボディの中にあるセンターブロックについては、ネックの構造と同じ様にメイプル・マホガニーの2層のブロックを採用。ネックとのコンビネーションによりあのリトナーサウンドが得られます。

弦、ボディの振動を忠実にピックアップするためという基本的考えからアルニコマグネット、アメリカンワイヤーを使用。リトナーサウンドの秘密のもう一つの要です。シックではどれのよいサウンドが特徴です。

ネックのシェイプについては数10本におよぶネックのシェイプからリトナーがもっともプレイしやすいネックをピックアップし、細部にわたりにシェイプ。ロスアンゼルススタジオミュージシャンらに数回プレイヤリチの高いネックだと賞わしめたネックシェイプをLR10に贈りました。だからかな非対称がしつかりと手になじみ、ロウポジションからハイポジションまでの運指がここに決まります。

その他従来のセーラーを破るノンアンジャスタブルマシンヘッド。これは今までトルクを調節出来るマシンヘッドにみられた種々なスクリーンの粉末、トルクを思い通りに調節する器具がないといった難点を完全に解消。ニューラルベチューンマシンヘッドはチューニングに集中させてくれます。

